

目次

1.Windows のログオンユーザーを確認する -----	2
■WindowsXP の確認方法 -----	2
■WindowsVista の確認方法 -----	3
2.GaiaRX がすでにインストールされている場合 -----	3
■システム更新 -----	3
■データ更新 -----	4
3.インストール時のご注意 -----	6
■ポート番号について -----	6
■他社製品について -----	6
■データのバックアップについて -----	6
■アンインストールについて -----	6
4.GaiaRX 初期導入手順 -----	7
5.GaiaRX にて GaiaMX・Gaia21 のデータを使用する -----	7
■GaiaMX・Gaia21 にて単価の退避を行う -----	8
■GaiaRX にて単価の読込を行う -----	9
■ブロック地区を作成する -----	12
■ブロック地区を自動作成する -----	14
■GaiaMX・Gaia21 にて工事の退避を行う -----	16
■GaiaRX にて工事の読込を行う -----	17
6.プロテクトドライバをインストールする -----	22
■プロテクトドライバを個別にインストールする -----	22
■プロテクトドライバを手動でインストールする(セットアップメニューからインストールできない場合) -----	23
7.SQL Anywhere 9 を個別にインストール -----	25
8.ダウンロード手順 -----	26
9.よくあるエラー -----	31
10.Windows Vista/Windows 7 でご使用時の注意事項 -----	34
11.「プロテクトドライバ、SQL Anywhere9 がインストールされていないためインストールは行えません。」と表示される -----	34
12. BeingCabinet の使用について -----	35
13.インターネットプロテクトについて -----	37
■お客様ご契約情報について -----	37
■ライセンスを変更する場合 -----	38
■ライセンスの返却について -----	38

1.Windows のログオンユーザーを確認する

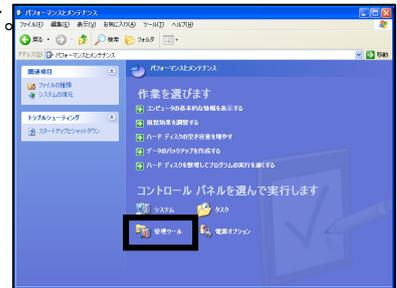
インストールを行う場合、Windows のログオンユーザーに Administrator 権限が必要です。
必ず Administrator 権限を持つユーザーでログオンし、インストールを行って下さい。

■ WindowsXP の確認方法

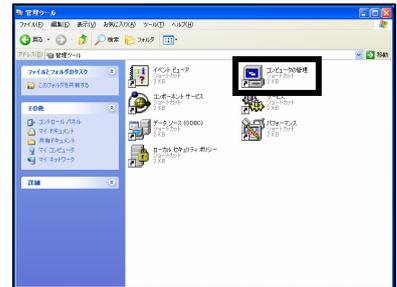
①Windows の[スタート]－[コントロールパネル]－[管理ツール]をクリックします。

◆WindowsXP で[管理ツール]が表示されていない場合

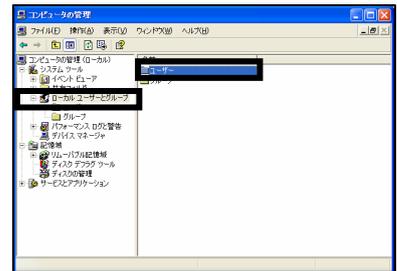
Windows の[スタート]－[コントロールパネル]－[パフォーマンスとメンテナンス]－[管理ツール]をクリックして下さい。



②「管理ツール」画面が表示されます。
[コンピュータの管理]をダブルクリックします。



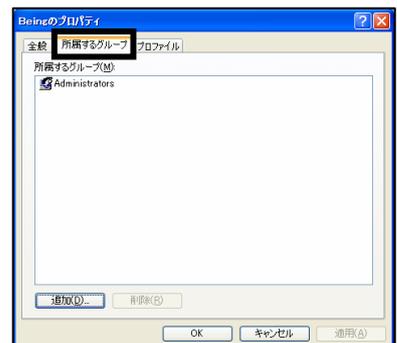
③「コンピュータの管理」画面が表示されます。
画面左側の「ローカルユーザーとグループ」をクリックし、画面右側の
[ユーザー]をダブルクリックします。



④確認したいユーザーの名称をダブルクリックします。



⑤「プロパティ」画面が表示されます。
「所属するグループ」タブをクリックし、Administrator 権限を持つ
グループに所属しているかを確認して下さい。



■ WindowsVista の確認方法

Windows の[スタート]－[コントロールパネル]－[ユーザーアカウント]内の[ユーザーアカウント制御の有効化または無効化]をクリックします。

(管理者の場合)

ログオンユーザーが Administrator 権限を持っている場合、右図の画面が表示されます。



確認ができましたら[キャンセル]をクリックし、終了します。

(管理者以外の場合)

ログオンユーザーが Administrator 権限を持っていない場合、右図の画面が表示されます。



Administrator 権限のある管理者アカウントを選択し、パスワードを入力して下さい。

2. GaiaRXがすでにインストールされている場合

■ システム更新

CD-ROM ドライブに「GaiaRX」のCDを入れて下さい。

CDが読み込まれると、自動的に「積算システム CD-ROM」画面が表示されます。
[積算システム]をクリックします。

新規インストールと同様の手順にて、システム更新を行います。



● プロテクトの確認

GaiaRXをインストールするコンピュータに直接プロテクトを装着している場合と、BeingCabinet をインストールしたコンピュータにプロテクトを装着している場合とで、「BeingCabinet サーバーの設定」の手順が異なります。GaiaRXのインストールを始める前にどちらのコンピュータにプロテクトを装着しているか、あらかじめご確認下さい。

「BeingCabinet サーバーの設定」画面で、BeingCabinet を使用せず、GaiaRX をインストールするコンピュータを接続しているのに、[キャンセル]をクリックできない場合は、プロテクトの接続状態をご確認下さい。

※「エラー12 Calling Sproinitialize」というメッセージが表示される場合には、「[6.プロテクトドライバをインストールする\(P.22\)](#)」をご参照のうえ、古いバージョンのプロテクトドライバを削除してから、USB プロテクトドライバのインストールを行って下さい。

その後、GaiaRX のインストールを行って下さい。

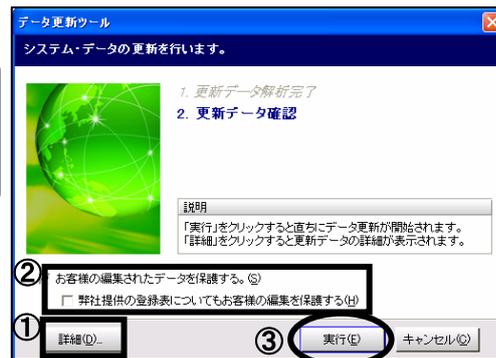
■ データ更新

CD-ROM ドライブにデータ更新CDをセットして下さい。

<データ更新 CD が自動起動しない場合>

[スタート]—[コンピュータ]をクリックします。CDドライブを選択し、データ更新 CD 中の「RXDataSetupLaunch.exe」のファイルをダブルクリックすると、「データ更新ツール」が起動します。

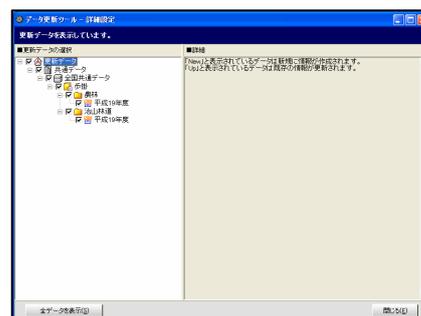
「データ更新ツール」が起動します。



①「詳細設定」画面について

データ更新を行う際、必要に応じて詳細設定を行うことができます。

- ・「データ更新ツール」画面にて、[詳細]をクリックすると、右図の「詳細設定」画面が表示されます。
- ・画面左側のツリーでデータの年度を選択すると、画面右側の「詳細」欄に選択したデータの詳細が表示されます。
- ・[全データを表示]をクリックすると、既存のデータを含め、全データが表示されます。
- ・[未更新データのみ表示]をクリックすると、更新対象データのみが表示されます。
- ・画面左側のツリーにて、更新が必要なデータを選択し、[閉じる]をクリックします。



②編集したデータを保護したい場合は、必ず、画面左下の[お客様の編集されたデータを保護する]にチェックを付けた状態で、[実行]をクリックします。詳しくは、下記「お客様の編集されたデータを保護する」について」をご参照下さい。

③[実行]をクリックします。

更新処理が完了したら、[終了]をクリックします。

注意点

◆「お客様の編集されたデータを保護する」について

「お客様の編集されたデータを保護する」にチェックを付けることで、お客様が登録・編集したデータを残しておくことができます。この項目にチェックを付けた場合、年度を追加する場合と年度を上書きする場合とで保護される内容が異なります。

また、「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」にチェックを付けると、弊社提供の登録表(単価登録の単価表、および職種登録の表)についてもお客様の編集内容が保護され、最新のデータに更新されません。

追加する年度には、 のマークが付きます。 上書きする年度には、 のマークが付きます。

●データの各モードについて

- ・ユーザーモード …お客様が作成したデータ (No 欄の数字が黒色のデータ)
- ・ビーイングモード…ビーイングが作成したデータ (No 欄の数字が青色のデータ)
- ・代理店モード …ビーイングおよび代理店で作成したデータ (No 欄の数字が紫色のデータ)

「お客様の編集されたデータを保護する」にチェックがついている場合、年度を追加する場合と上書きする場合それぞれにおいて、保護されるデータを表にまとめました。

保護する対象内容	年度追加	年度上書き
単価登録		
フォルダ		
フォルダの作成	すべてのモードのフォルダが保護されます。	すべてのモードのフォルダが保護されます。
フォルダの名称などの訂正	ユーザーモードのフォルダのみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードのフォルダを訂正した内容が保護されます。
単価項目		
単価項目の新規作成	すべてのモードの単価項目が保護されます。	すべてのモードの単価項目が保護されます。
単価項目の名称などの訂正	ユーザーモードの単価項目のみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードの単価項目を訂正した内容が保護されます。
単価項目の金額の訂正	ユーザーモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額のみ保護されます。	すべてのモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額が保護されます。
単価表の作成	すべてのモードの単価表が保護されます。	すべてのモードの単価表が保護されます。
単価表の表内の編集	「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」がチェックあり、チェックなしに関係なく、ユーザーモードの単価表のみ編集した内容が保護されます。	「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」がチェックありの場合、すべてのモードの単価表を編集した内容が保護され、弊社提供の単価表が最新データに更新されません。チェックなしの場合、ユーザーモードの単価表のみ編集した内容が保護されます。
損料登録		
フォルダ		
フォルダの作成	すべてのモードのフォルダが保護されます。	すべてのモードのフォルダが保護されます。
フォルダの名称などの訂正	ユーザーモードのフォルダのみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードのフォルダを訂正した内容が保護されます。
単価項目		
単価項目の新規作成	すべてのモードの単価項目が保護されます。	すべてのモードの単価項目が保護されます。
単価項目の名称などの訂正	ユーザーモードの単価項目のみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードの単価項目を訂正した内容が保護されます。
単価項目の金額の訂正	ユーザーモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額のみ保護されます。	すべてのモードのお客様が作成した単価項目の金額と、お客様が作成したブロック、地区の金額が保護されます。
工種登録		
フォルダ		
フォルダの作成	すべてのモードのフォルダが保護されます。	すべてのモードのフォルダが保護されます。
フォルダの名称などの訂正	ユーザーモードのフォルダのみ訂正した内容が保護されます。	すべてのモードのフォルダを訂正した内容が保護されます。
工種登録の表		
表の作成(自動積算の実行)	すべてのモードの表が保護されます。	すべてのモードの表が保護されます。
表の表内の編集	「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」がチェックあり、チェックなしに関係なく、ユーザーモードの表のみ編集した内容が保護されます。	「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」がチェックありの場合、すべてのモードの表を編集した内容が保護され、弊社提供の表が最新データに更新されません。チェックなしの場合、ユーザーモードの表のみ編集した内容が保護されます。
単価管理		
ブロックの作成	すべてのモードのブロックが保護されます。	すべてのモードのブロックが保護されます。
ブロック名の変更	すべてのモードの変更したブロック名が保護されます。	すべてのモードの変更したブロック名が保護されます。
地区の作成	すべてのモードの地区が保護されます。	すべてのモードの地区が保護されます。
地区名の変更	すべてのモードの変更した地区名が保護されます。	すべてのモードの変更した地区名が保護されます。
年度名称の変更	-	すべてのモードの変更した年度名称が保護されます。
エキスパートエディタ(オプション)		
歩掛の作成	すべてのモードの歩掛が保護されます。	すべてのモードの歩掛は保護されません。

3.インストール時のご注意

■ ポート番号について

パーソナルファイアウォール等の設定がされている場合は、下記のポートの制限を解除して下さい。
制限を解除しても問題が解消できない場合は、弊社サポートセンターまでお問い合わせ下さい。

NO	ポート	プロトコル	通信方向	用途
1	20、21、443	TCP	送信	ダウンロード
2	25	TCP	送信	メール送信 ※機能の有効にしている時のみ
3	2638,49152～49170	TCP/UDP	送信	データベースのアクセス
4	80(8080、8008) ※参照	TCP	送信	BeingCabinet 連携
5	80、443	TCP	送信	インターネットプロテクト
6	2638,49152～49170	TCP/UDP	受信	データベースのアクセス
7	1024～65535	TCP	受信	サーバー通信

※ (8080)・・・80が使われていた場合の第2優先

※ (8008)・・・80が使われていた場合の第3優先

■ 他社製品について

GaiaRXではデータベースとしてアイエニウェア・ソリューションズ株式会社の「SQL Anywhere」、Borland 株式会社の「Borland DataBase Engine」を使用しています。インストール時に以下の製品がインストールされます。
詳細については各製品のオンラインヘルプまたは README ファイルをご参照下さい。

- ・SQL Anywhere
以上の製品の著作権はアイエニウェア・ソリューションズ株式会社が所有しています。
- ・Borland Database Engine
以上の製品の著作権は Borland 株式会社が所有しています。
- ・UNLHA32.DLL
UNLHA32.DLL は Micco 氏のフリーソフトウェアです。
- ・UnZip32.DLL
UnZip32.dll Copyright (C) 1990-2002 Info-ZIP. All Rights Reserved.
- ・ファイルのプレビューにおいて、アドバンスソフトウェア株式会社の著作物である「VB-Report Ver3.0 (ActiveX 版)」を再配布条件に基づき使用しています。

注意点

- ◆ GaiaRX に付属する SQL Anywhere は、GaiaRX 以外の用途に使用することは認められていません。
- ◆ GaiaRX 以外の用途に使用される場合は、別途 SQL Anywhere のパッケージをお買い上げ下さい。
また、不正使用によるトラブルは、当社は一切責任を負わないものとします。ご了承下さい。

■ データのバックアップについて

お客様が作成されたデータは定期的にバックアップをお取り下さい。

ハードディスクの障害等でデータが破損した場合、単価データ、工種データ等は、インストール用 CD から出荷時の状態に復旧できますが、入力されたデータは消えてしまいます。
また、積算された工事データは CD-ROM からは復旧できません。

工事のバックアップは、「工事名表」の[工事を保存]メニューを、その他のデータについては「起動メニュー」から[データ管理]を起動し、「データを保存」をお使い下さい。

また、「起動メニュー」から[ユーザーサポート]を起動し、「データベースユーティリティ」にてデータベースファイルごとバックアップすることも可能です。

詳しくは、GaiaRX のオンラインヘルプをご参照下さい。

■ アンインストールについて

GaiaRX のアンインストールでは、データベースファイルは削除されません。アンインストール後、同じディレクトリに再インストールを行った場合、既存(アンインストールされずに残っている)のデータベースをそのまま使用することが可能です。

4. GaiaRX 初期導入手順

GaiaRX 導入時に行う作業をご説明します。積算を行うまでに、この初期導入手順を元に各種設定、登録を行っておくと、スムーズに積算を開始することができます。

あくまでも参考手順ですので、必ずこの手順にしたがわなければいけないということではございません。

- ① **GaiaRX インストール手順書**にしたがってインストールを行って下さい。
必ず、インストールコンピュータの環境、プロテクトが装着されているかどうかをご確認のうえ、インストールを行って下さい。

※BeingCabinet をインストールしたコンピュータに「キャビネットライセンス」プロテクトが装着されている場合は、GaiaRX をインストールするコンピュータにプロテクトを装着する必要はありません。

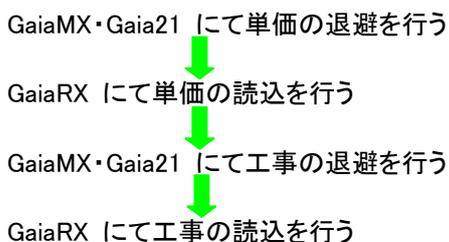
※「エラー12 Calling Sproinitialize」というメッセージが表示される場合には、「[6.プロテクトドライバをインストールする\(P.22\)](#)」をご参照のうえ、古いバージョンのプロテクトドライバを削除してから、USB プロテクトドライバのインストールを行って下さい。その後、GaiaRX のインストールを行って下さい。

- ② 地域データ・市販単価データの読込を行う場合は、地域データ・市販単価データの提供先の発行する手順に沿って読み込むか、提供先にお問い合わせ下さい。
- ③ 会社名情報の登録を行って下さい。
[プログラム]－[GaiaRX]－[GaiaRX 起動メニュー]をクリックし、[ユーザー管理]を選択します。
「ユーザー管理」画面が表示されますので、メニューバーの[編集]－[会社名情報]をクリックします。
「会社名情報」画面が表示されますので、画面の必要な項目を入力し、[OK]をクリックして下さい。
- ④ 土木工事積算システム GaiaMX・Gaia21 をお使いのお客様で、GaiaMX・Gaia21 のデータを GaiaRX でお使いになる場合は、GaiaMX・Gaia21 でデータの退避を行った後、GaiaRX を起動し、GaiaMX・Gaia21 のデータの読込を行って下さい。
「GaiaMX・Gaia21 でのデータの退避」、「GaiaRX へのデータの読込」についての手順は、「[5.GaiaRX にて GaiaMX・Gaia21 のデータを使用する\(P.7\)](#)」をご参照下さい。

5. GaiaRX にて GaiaMX・Gaia21 のデータを使用する

注意点

- ◆ GaiaRX にて GaiaMX・Gaia21 のデータを使用される場合は、いくつか制約事項があります。
「[◆制約事項◆\(P.19～21\)](#)」にて、内容をご確認下さい。
- ◆ GaiaRX にて GaiaMX・Gaia21 のデータを使用される場合は、GaiaMX・Gaia21 の単価データを先に読み込んでから、GaiaMX・Gaia21 の工事データの読込を行って下さい。手順が逆になると、読み込んだデータが正しく表示されないことがあります。
- ◆ GaiaMX・Gaia21 のデータは、GaiaRX の[GaiaRX 起動メニュー]－[ユーザーサポート]の「データベースユーティリティ」からは移行できません。以下の手順で行って下さい。



■ GaiaMX・Gaia21 にて単価の退避を行う

- ①[スタート]－[プログラム]－[GaiaMX*** (Gaia21)]－[GaiaMX 起動メニュー (Gaia21 起動メニュー)]をクリックします。 (***)は Client または Server です。)

- ◆GaiaMX (Gaia21) 関係のアプリケーションが起動している場合は、作業の前に終了して下さい。
- ◆画面および手順は GaiaMX のものとなります。Gaia21 の場合とは一部異なりますのでご了承下さい。

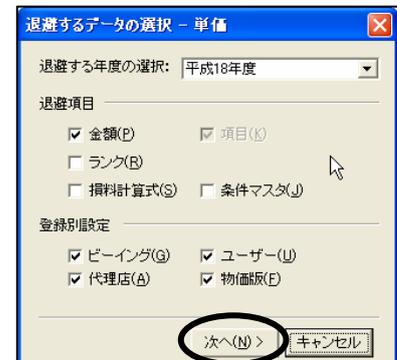
- ②「起動メニュー」画面が表示されますので、[データ管理]をクリックします。



- ③「データ管理」画面が表示されます。画面左側の「データ管理機能一覧」より、[退避]をクリックします。
画面右側の「退避項目一覧」より、「単価の退避」をダブルクリックします。



- ④「退避するデータの選択」画面が表示されますので、退避する年度、項目を選択し、[次へ]をクリックします。



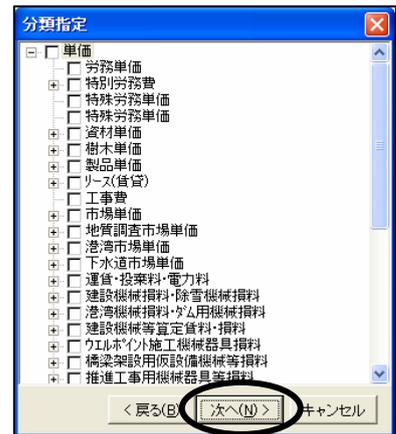
◆退避項目について

- ・単価の「金額」も退避する場合は「金額」欄にチェックを付けます。「金額」を退避すると、付随する「単価資料元」も同時に退避されます。項目名は自動的に退避されます。
- ・その他のデータが必要な場合は、以下もチェックを付けて下さい。
 - ランク … 港湾歩掛で使用する船員船舶供用係数データ
 - 条件マスタ … 単価の条件欄の項目データ
 - 損料計算式 … 機械損料の各欄を求める計算式データ

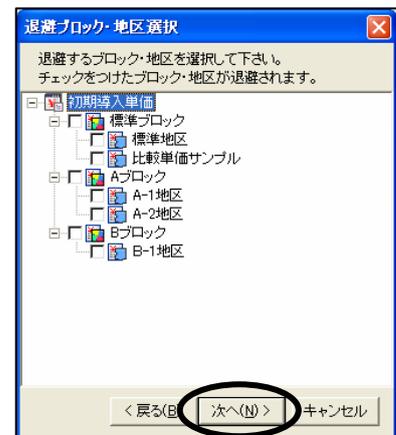
◆登録別設定について

- ピーニング・ユーザ・代理店・物価版 という4つの登録者モードで登録されている単価を、モード別に退避することができます。退避する必要のない登録者モードのチェックを外して下さい。

- ⑤「分類指定」画面が表示されますので、退避する項目にチェックを付け、[次へ]をクリックします。



- ⑥「退避ブロック・地区選択」画面が表示されます。
 退避する地区(またはブロック)にチェックを付け、[次へ]をクリックします。
 ※ブロック・地区単価については、GaiaRX 機能編マニュアル「第3章 データ管理 ブロック/地区単価について(P.3-1-5)」をご参照下さい。



- ⑦単価データの退避先を選択します。ファイル名を入力し、[保存]をクリックします。
 ※「保存する場所」に現在開いているドライブ、もしくはフォルダが表示されます。



単価の退避が開始されます。
 退避する件数によっては、少々時間がかかります。

- ⑧右図のメッセージが表示されると、単価の退避は完了です。
 [OK]をクリックし、単価の退避を終了します。



■ GaiaRX にて単価の読込を行う

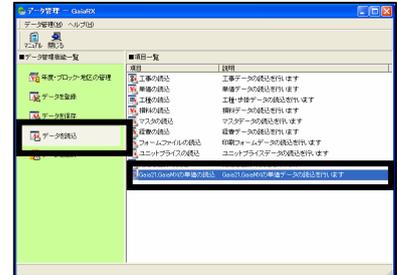
- ①[スタート]－[プログラム]－[GaiaRX]－[GaiaRX 起動メニュー]をクリックします。

◆GaiaRX 関係のアプリケーションが起動している場合は、作業の前に終了して下さい。

②「起動メニュー」画面が表示されますので、[データ管理]をクリックします。



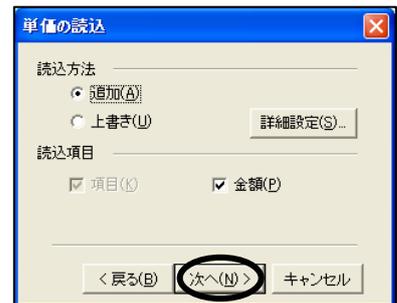
③「データ管理」画面が表示されますので、画面左側の「データ管理機能一覧」より、[データを読込]をクリックします。
画面右側の「項目一覧」より、「GaiaMX,Gaia21 の単価の読込」をダブルクリックします。



④GaiaMX,Gaia21 にて退避を行ったファイルを選択し、[開く]をクリックします。



⑤「単価の読込」画面が表示されますので、「読込方法」「読み込む項目」を選択し、[次へ]をクリックします。



◆読込方法について

- ・追加 … 追加単価のみが読み込まれます。読込元単価と読込先単価を比較し、読込元単価で追加されているもののみ登録します。
- ・上書き … 項目名(名称、規格等)、金額等が読込元の内容に書き変わります。ただし、読込元単価と読込先単価を比較し、読込先に存在しない単価は追加されます。

※GaiaMX・Gaia21 のビーイング、代理店が登録した単価は、GaiaRX に追加で読み込むことはできません。上書きでの読込になります。

◆詳細設定について(詳細設定は上書き時のみ有効となります)

「単価の読込」画面右側の[詳細設定]をクリックします。「詳細設定」画面が表示されます。

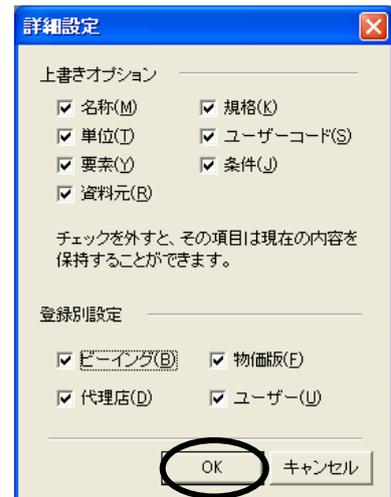
・上書きオプション

読込方法で「上書き」を設定している場合のみ有効です。
名称/規格/単位/ユーザーコード/要素/条件/資料元 のうち、
チェックの付いている項目が上書きされます。

・登録別設定

ビーイング・物価版・代理店・ユーザーという4つの登録者モードで
登録されている単価を、モード別に読み込むことができます。
読み込む必要のない登録者モードのチェックを外して下さい。

設定ができましたら、[OK]をクリックし、「単価の読込」画面へ戻ります。



◆読込項目について

- ・項目 … 大分類/中分類/小分類/名称・規格 を読み込みます。「読込方法」で「追加」を選択すると、自動的に「項目」にチェックが付きます。
- ・金額 … 金額・単価資料元を読み込みます。

⑥「読込ブロック・地区選択」画面が表示されます。

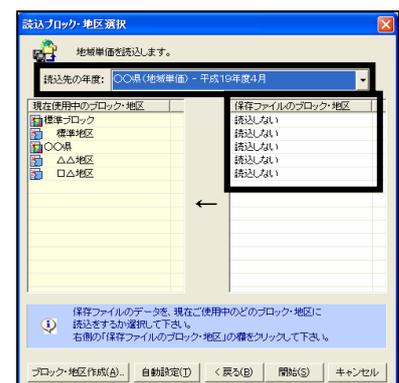
「読込先の年度」欄の右側の▼をクリックし、読み込む単価データの年度を選択します。

※地域・市販単価データを購入されている場合は、地域・市販単価へ、地域・市販単価データを購入されていない場合は、Being 参考単価へ読み込まれます。

「現在使用中のブロック・地区」の右側、「保存ファイルのブロック・地区」欄の「読込しない」をクリックし、単価データの読込先を指定します。

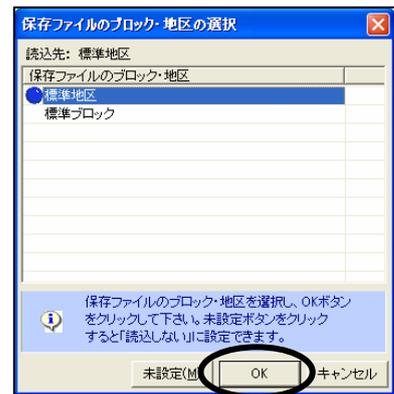
※この画面からブロックや地区を作成することができます。

詳しくは、「[ブロック・地区を作成する\(P.12\)](#)」をご参照下さい。



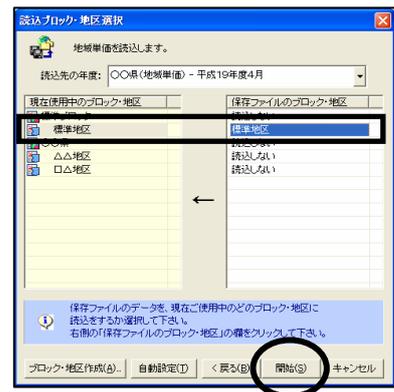
例:「現在使用中のブロック・地区」の中で、上から2番目の「標準地区」の単価を読み込む場合は、「保存ファイルのブロック・地区」の上から2番目の「読込しない」をクリックします。

- ⑦「保存ファイルのブロック・地区の選択」画面が表示されます。
読み込むブロック・地区を選択し、[OK]をクリックします。
※[未設定]をクリックすると、「読みしない」に設定されます。

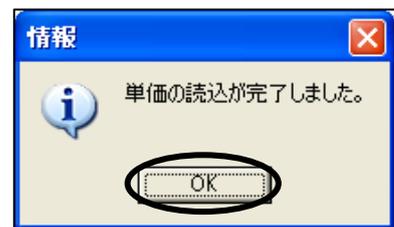


- ⑧「読みブロック・地区選択」画面に戻ります。
[開始]をクリックすると、単価の読み込みが開始されます。

- ◆「読みしない」と表示されているブロック・地区に対しては読み込みません。「保存ファイルのブロック・地区」を設定した後、解除する場合は、対象の項目上で右クリックメニューの[未設定]をクリックします。
- ◆[自動設定]をクリックすると、同じ名称の地区データがある場合、自動的にその地区に設定されます。

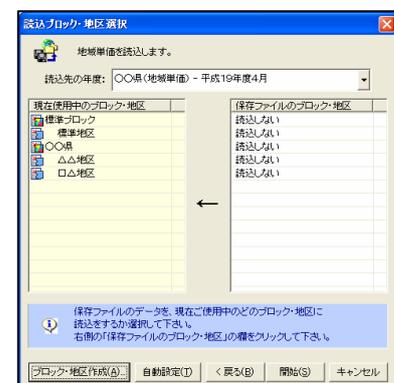


- ⑨右図のメッセージが表示されると、GaiaRXにて単価の読み込みは完了です。
[OK]をクリックすると、「データ管理」画面に戻ります。



■ ブロック・地区を作成する

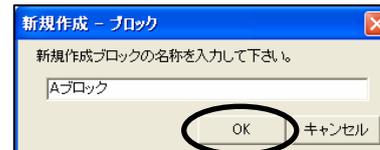
- ①「読みブロック・地区選択」画面にて、左下の[ブロック・地区作成]をクリックします。
※データの設定中にブロック・地区作成を行った場合、「保存ファイルのブロック・地区」欄で設定されていた内容は初期化され、「未設定」に戻ります。ブロック・地区作成が終わってからもう一度設定して下さい。



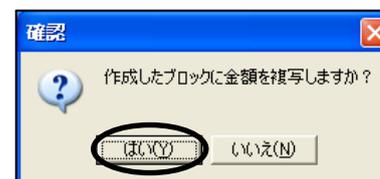
- ②「ブロック・地区作成」画面が表示されます。
作成するブロック(地区)の1つ上の階層を選択し、メニューバー
[新規作成]－[ブロック作成]([地区作成])をクリックします。



- ③作成するブロック(地区)の名称入力画面が表示されます。
名称を入力し、[OK]をクリックして下さい。



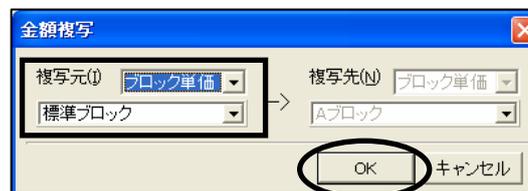
- ④「ブロック作成」を選択した場合は、右図のメッセージが表示されます。
金額を複写する場合は[はい]を、複写しない場合は[いいえ]を
クリックします。



※ブロックを作成する場合は[はい]を選択し、必ず金額複写を行って下さい。

※金額複写には時間がかかります。ご了承下さい。

※金額を複写する場合、「金額複写」画面が表示されますので、複写元を設定します。



- ⑤ブロック(地区)が作成されます。
[閉じる]をクリックすると、「読込ブロック・地区選択」画面に戻ります。
「[GaiaRXにて単価の読込を行う手順⑥\(P.11\)](#)」に戻り、設定を行って下さい。

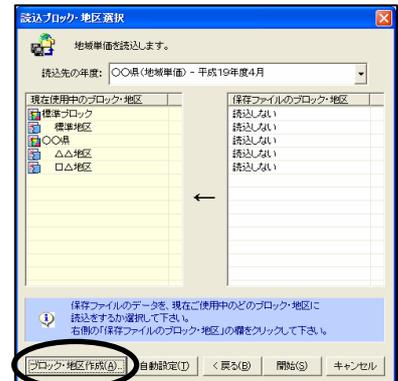


■ ブロック・地区を自動作成する

読み込むデータの名称を元にブロック・地区を自動作成することができます。

※フロッピーには対応していません。また、データの形式によっては、自動作成できない場合があります。

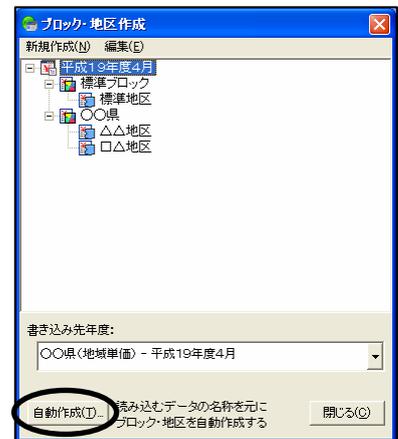
①「読み込むブロック・地区選択」画面にて、左下の「ブロック・地区作成」をクリックします。



②「ブロック・地区作成」画面が表示されます。

作成するブロック(地区)の1つ上の階層を選択し、「自動作成」をクリックします。

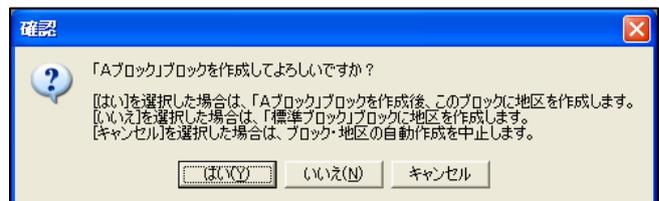
この先の手順は読み込むデータによって異なります。



③右図のメッセージが表示されます。

・ブロック・地区の両方を作成したい場合は、「はい」をクリックします。

・地区のみを作成したい場合は、「いいえ」をクリックします。



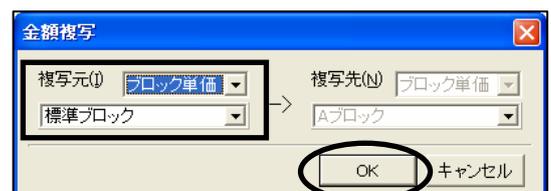
<「はい」を選択した場合>

1) 右図のメッセージが表示されます。

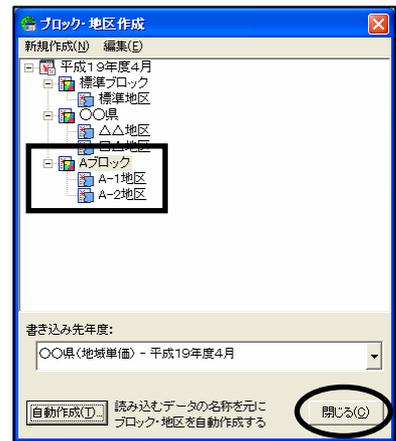
金額を複写する場合は「はい」を、しない場合は「いいえ」をクリックします。



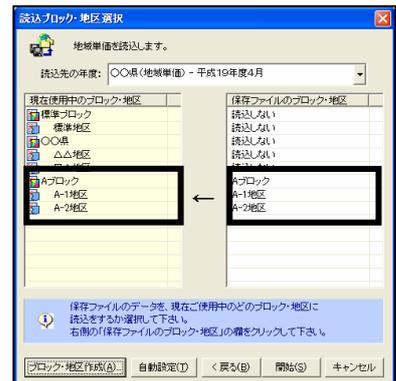
※金額を複写する場合、「金額複写」画面が表示されますので、複写元を設定します。



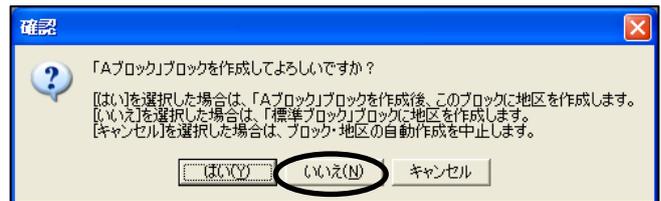
2)「ブロック・地区作成」画面が表示され、ブロックおよび地区が追加されます。
 [閉じる]をクリックして下さい。



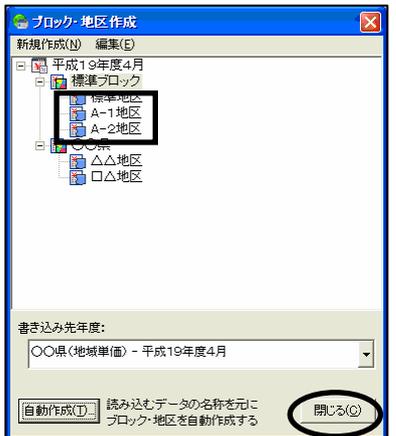
3)「読込ブロック・地区」画面の「現在使用中のブロック・地区」欄に
 ブロック・地区が追加されます。
 ※「保存ファイルのブロック・地区」欄も、同じ名称のブロック・地区データに
 自動的に設定されます。



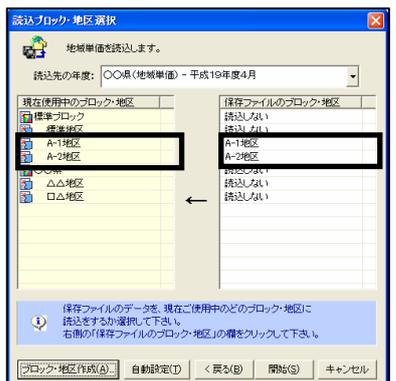
< [いいえ] を選択した場合 >



1)「ブロック・地区作成」画面が表示され、選択されていたブロックの下に
 地区が作成されます。
 [閉じる]をクリックして下さい。



2)「読込ブロック・地区選択」画面の「現在使用中のブロック・地区」欄に
 地区が追加されます。
 ※「保存ファイルのブロック・地区」欄も、同じ名称の地区データに、
 自動的に設定されます。



■ GaiaMX・Gaia21 にて工事の退避を行う

- ①[スタート]－[プログラム]－[GaiaMX*** (Gaia21)]－[GaiaMX 起動メニュー (Gaia21 起動メニュー)]をクリックします。(***は Client または Server です。)

- ◆GaiaMX (Gaia21) 関係のアプリケーションが起動している場合は、作業の前に終了して下さい。
- ◆画面および手順は GaiaMX のものとなります。Gaia21 の場合とは一部異なりますのでご了承下さい。
- ◆工事書庫の工事を GaiaRX にてご使用になる場合は、「工事の退避」を行う前に工事書庫から工事名表に工事を取り出して置いて下さい。

- ②「起動メニュー」画面が表示されますので、[データ管理]をクリックします。



- ③「データ管理」画面が表示されます。
画面左側の「データ管理機能一覧」より、[退避]をクリックします。
画面右側の「退避項目一覧」より、「工事の退避」をダブルクリックします。

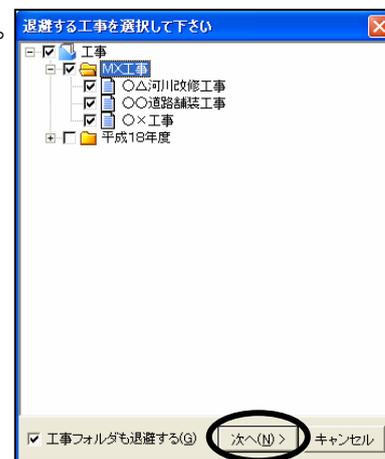
- ◆GaiaMX・Gaia21 の工事名表より工事の「退避」を行う場合

ツールバーの  をクリックします。

メニューバーの [ツール]－[退避] をクリックしても同様です。



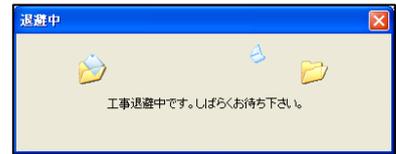
- ④「退避する工事の選択」画面が表示されますので、退避する工事を選択します。
※フォルダ単位で工事をすべて退避する場合は、「退避する工事の選択」画面左下の「工事フォルダも退避する」にチェックを付け、退避したいフォルダを選択します。
選択が終わりましたら、[次へ]をクリックします。



- ⑤工事データの退避先を選択、ファイル名を入力し、[保存]をクリックします。
※「保存する場所」に現在開いているドライブもしくはフォルダが表示されます。



- ⑥工事の退避が開始されます。
退避する件数によっては、少々時間がかかります。



- ⑦右図のメッセージが表示されると、工事の退避は完了です。
[OK]をクリックし、工事の退避を終了します。



■ GaiaRX にて工事の読込を行う

- ①[スタート]－[プログラム]－[GaiaRX]－[GaiaRX 起動メニュー]をクリックします。

◆GaiaRX 関係のアプリケーションが起動している場合は、作業の前に終了して下さい。

- ②「起動メニュー」画面が表示されますので、[データ管理]をクリックします。

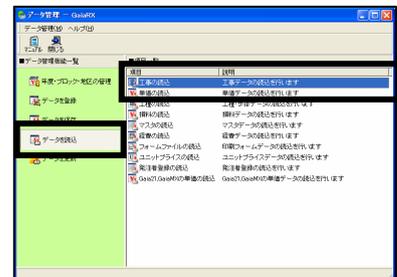


- ③「データ管理」画面左側の「データ管理機能一覧」より、[データを読込]をクリックします。
画面右側の「項目一覧」より、「工事の読込」をダブルクリックします。

◆GaiaRX の工事名表より[工事を読込]を行う場合

ツールバーの をクリックします。

メニューバーの[工事]－[工事を読込]をクリックしても同様です。



- ④読み込む工事データの保存ファイルを選択し、[開く]をクリックします。
※「ファイルの場所」に現在開いているフォルダもしくはドライブが表示されます。

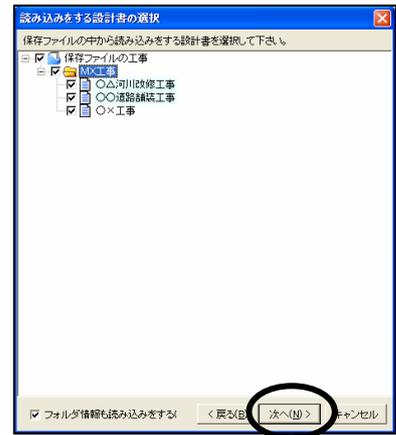


⑤「読み込みをする設計書の選択」画面が表示されます。

読み込む設計書にチェックを付けます。

※フォルダ単位で工事をすべて読み込む場合は、「読み込みをする設計書の選択」画面左下の「フォルダ情報も読み込みをする」にチェックを付け、読み込むフォルダを選択します。

[次へ]をクリックします。



⑥「読み先フォルダの指定」画面が表示されます。

工事・設計書を読み込むグループ(フォルダ)を選択し、[開始]をクリックします。

※画面左下の[フォルダ作成]をクリック、または右クリックメニューの[新規作成]をクリックすると、グループを新規に作成することができます。



⑦右図のメッセージが表示されましたら、工事の読込は完了です。

[OK]をクリックします。



◆制約事項◆

- ・GaiaMX、Gaia21 から移行できるデータは下表の通りです。
- ・データによっては移行できないものもあります。

移行元	移行項目									
	マスタ	単価	歩掛	経費	工事	ユーザー管理	登録データ	ユニット	単語リスト	（設計書） （履歴） （出入） （履歴）
Gaia21 スタンドアロン	×	△	△	×	△	×	-	×	×	○
Gaia21 サーバー	×	△	△	×	-	×	-	×	×	○
Gaia21 クライアント	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-
GaiaMX サーバー	×	△	△	×	△	×	×	×	×	○
GaiaMX クライアント	×	△	△	×	△	×	×	×	×	○

- …移行可能
- △…条件付で移行可能
(内容は下記参照)
- ×…移行不可

<単価データ>

- ・GaiaMX、Gaia21 の単価データ(表以外)の移行は、GaiaMX、Gaia21 のデータ管理にて、[退避]－[単価の退避]を実行し、GaiaRX のデータ管理から[データを読込]－[GaiaMX,Gaia21 の単価の読込]読込を実行して移行します。
詳しくは、「[GaiaMX・Gaia21 にて単価の退避を行う\(P.8\)](#)」の手順をご参照下さい。
- ・GaiaMX、Gaia21 の整備局単価、市販単価に入力していた金額は GaiaRX に読み込むことはできません。
- ・地域データを購入されている場合は、地域データへ読み込まれます。
- ・地域データを購入されていない場合は、Beingが提供している参考単価へ読み込まれます。
- ・GaiaMX、Gaia21 のビーイング・代理店の2つの登録者モードで登録されている単価項目の金額を訂正していた場合、読込先の地域データ、あるいは、Being 参考単価に上記の2つの登録者モードで登録されている単価項目が存在しなければ、GaiaRX では追加で読込ができないため、訂正した単価項目の金額を読み込むことができません。
- ・GaiaMX、Gaia21 でお客様が登録された単価項目は、GaiaRX に追加で読み込むことができます。
ただし、GaiaMX、Gaia21 での表示番号は保持しませんので、各読込先の最下行に表示されます。
- ・GaiaMX、Gaia21 の単価金額は、地域単価のみ GaiaRX に上書きされます。

<単価表、工種登録、歩掛データ>

- ・GaiaMX、Gaia21 の単価登録の表、工種登録の表、積算モジュールの表、歩掛データについては、退避・読込でデータの移行を行うことはできません。
GaiaRX にてお使いになるには、データをお預かりしてのメンテナンスが必要です。
これらのデータの移行が必要な場合は、営業所、代理店にご連絡下さい。
 - ・読み込んだ単価登録の表、工種登録の表内に計上してある単価項目の名称に「名称がありません」と表示される場合は、以下の確認を行って下さい。
- ※工種登録に戻り、メニューバーの[単価]－[表示単価切替]をクリックして下さい。
表示される「表示単価切替」画面にて、GaiaMX、Gaia21 の単価データを移行した単価年度が設定されているかご確認下さい。

◆制約事項◆

<工事データ>

- ・GaiaRXにて、[工事を読込]をする前に、必ず「データ管理」にて、[GaiaMX、Gaia21の単価の読込]を行って下さい。
- ・GaiaRXの単価データ、損料データで該当する単価がない場合は、すべて手書き行に変換されます。
- ・工事内で使われている単価もGaiaRXの単価につながかえられますが、Gaia21、GaiaMXで使っていた金額がGaiaRXに移行されていない場合、元参照や再積上で意図しない金額に変更される場合があります。
(例: GaiaMX、Gaia21で0円1円単価の項目に金額を入力していた場合、0円1円単価に戻る。など)
- ・GaiaMX、Gaia21の工事データの移行は、GaiaMX、Gaia21の工事名表から[工事を退避]を実行し、GaiaRXの工事名表から[工事を読込]を実行して移行します。[GaiaRX起動メニュー]－[データ管理]の[データを読込]－[工事の読込]からでも工事データを読み込むことができます。
詳しくは、「[GaiaMX・Gaia21にて工事の退避を行う\(P.16\)](#)」の手順をご参照下さい。

◆セキュリティについて

- ・工事に対するセキュリティはすべてEveryOne(どなたでも使用していただける状態)となります。セキュリティを使用する場合には、読込後、工事セキュリティを再度設定していただく必要があります。

◆移行した工事データのご使用前の処理について

- ・工事を読み込んだ直後は、読み取り専用となります。
- ・総括表にて、発注者の選択、入札年月日の入力を行うと、編集が可能な状態になります。
- ・読み込んだ工事を編集可能な状態で初めて開く場合は、必ず再積上げを行います。

◆豪雪補正について

- ・GaiaRXでは、工種データ(歩掛)に損料の豪雪補正をかける／かけないを設定できます。
- ・総括表にて、損料にかかる豪雪補正の選択を行い、本工事費内訳書を開くと再積上げを行います。
- ・損料の豪雪補正をかけない設定がされている工種データ(歩掛)の損料は豪雪補正をかけない金額で計上するため、直接工事費が変わる場合がありますのでご注意ください。

◆番号について

- ・表の番号は、GaiaMX、Gaia21の番号を保持した状態で移行します。
- ・読み込んだ工事にて、表の追加を行うなどした後に、新たに番号を振り直したい場合は、「本工事費内訳書」画面にて、メニューバーの[編集]－[番号振り直し]の「番号振り直し」画面を開いて下さい。
「番号を手書きした表の番号を残す」のチェックを外した後、[実行]をクリックし、番号の振り直しを行って下さい。
- ・その際、番号の名称は、「表種毎の個別設定」で設定されている番号の名称に変わります。

◆制約事項◆

<工事データ>

◆経費について

- ・GaiaMX、Gaia21 から読み込んだ工事データを開くと、間接費の処理について確認画面が表示されます。
- ・「そのまま使用する」を選択した場合は、GaiaMX、Gaia21 の経費情報を保持します。
- ・「作り直す」を選択した場合は、間接費行を GaiaRX の経費データで作ります。
- ・間接費の積上げ分は、作り直した間接費の内訳書内に反映されます。
- ・GaiaRX の間接費に内訳書がない GaiaMX、Gaia21 の間接費内の積上げ分は、直接工事費に移動され、移動された間接費の内訳書には、付箋が付きます。
- ・「作り直す」を選択した場合は、以下の点についてご注意ください。

※GaiaRX では、鋼橋門扉等工場原価や桁等購入費の自動集計が行われます。

GaiaMX、Gaia21 から読み込んだ工事の間接費内で、鋼橋門扉等工場原価や桁等購入費の積上げを行っている場合、直接工事費に移動した内訳書に対し、鋼橋門扉等工場原価や桁等購入費の情報を自動で設定されます。(内訳書を選択し、右クリックメニューの[間接工事費の対象]をクリックすると、確認ができます。)

※自動で該当する間接費の対象額から差し引かれますが、GaiaMX、Gaia21 と異なり、直接工事費にも計上されますので、経費計算の結果が異なります。必ず、経費計算結果をご確認下さい。

◆印刷/Excel について

- ・GaiaRX から、印刷の出力設定が、Excel 出力にも反映されるようになります。
GaiaMX、Gaia21 とは出力形式が若干変わる場合があります。

<工事書庫データ>

- ・工事書庫データの移行については、まず工事書庫から工事データを取り出して下さい。
- ・その後、工事データ同様に、GaiaMX、Gaia21 の工事名表から[工事を退避]を実行し、GaiaRX の工事名表から[工事を読込]を実行して移行します。
- ・GaiaRX に読み込んだ工事データについての制限事項は、<工事データ>の記述と同じとなります。

6. プロテクトドライバをインストールする

■ プロテクトドライバを個別にインストールする

通常の手順でGaiaRXのインストールを行ってもUSBプロテクトが認識されない場合に行います。
「エラー12 Calling Sprounitialize」というメッセージが表示される場合にも、この手順を行って下さい。

インストールを行う場合は、ログオンユーザーに Administrator 権限が必要です。
必ず Administrator 権限を持つユーザーでログオンし、インストールを開始して下さい。

◆古いバージョンのプロテクトドライバがインストールされている場合は、削除を行ってからインストールして下さい。

◆古いバージョンのプロテクトドライバの削除方法

① <Windows XP の場合>

[スタート] - [コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。

<Windows Vista / Windows 7 の場合>

Windows の [スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムのアンインストール] をクリックします。

② 一覧より「Sentinel System Driver」を選択します。

(見当たらない場合は削除の必要はありません。)

③ [削除] または [アンインストール] をクリックします。

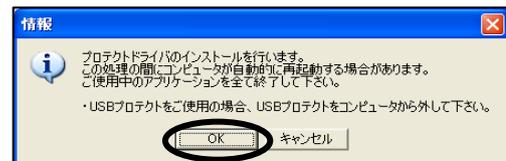
USB プロテクトは接続していない状態で下記手順を進めて下さい。

CD-ROMドライブに「GaiaRX」のCDをセットし、起動した「積算システムCD-ROM」画面の「プロテクト」をクリックします。



右図のメッセージが表示されます。
[OK] をクリックすると、インストールを開始します。

再起動を促すメッセージが表示される場合には、コンピュータの再起動を行います。



プロテクトドライバのインストールが完了しましたら、コンピュータにプロテクトを接続して下さい。
その後、再起動を促すメッセージが表示された場合は、コンピュータを再起動して下さい。

セットアップメニューからインストールできない場合は、プロテクトドライバを手動でインストールします「[プロテクトドライバを手動でインストールする\(セットアップメニューからインストール出来ない場合\)\(P.23 参照\)](#)」。

<「積算システム CD-ROM 画面」が自動起動しない場合>

[スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [エクスプローラ] を起動します。

「GaiaRX」の CD の中の「LaunchRX.exe」のファイルをダブルクリックすると、「積算システム CD-ROM」画面が起動します。

■ プロテクトドライバを手動でインストールする (セットアップメニューからインストール出来ない場合)

① CD-ROM ドライブに GaiaRX の CD を入れて下さい。
CD-ROM が読み込まれると、自動的にセットアップメニューが起動されます。
[終了]をクリックし、メニューを終了します。



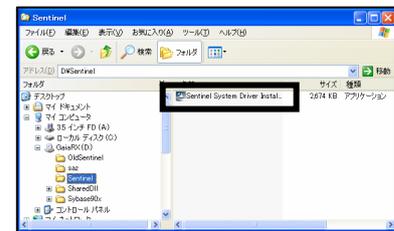
② [スタート] – [すべてのプログラム] – [アクセサリ] – [エクスプローラ] を起動します。



③ GaiaRX の CD の中の「Sentinel」フォルダを開き、「Sentinel System Driver Installer 7.4.0.exe」のファイルをダブルクリックします。



Sentinel System Driver Installer は、OS が 32bit の場合、7.4.0.exe を使用し、OS が 64bit の場合、7.5.1.exe を使用します。



◆ Windows Vista / Windows 7 / Windows Server 2008 の場合

GaiaRX の CD の中の「Sentinel」フォルダを開き、「Sentinel System Driver Installer 7.4.0.exe」のファイルをダブルクリックします。

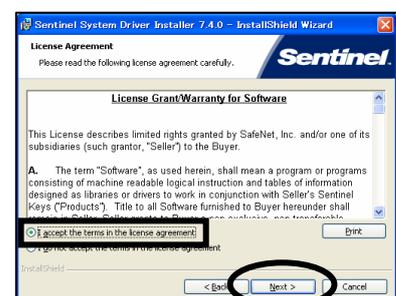
「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。
[続行]をクリックすると、プロテクトのインストールを開始します。



④ 右画面が表示されます。[Next]をクリックします。



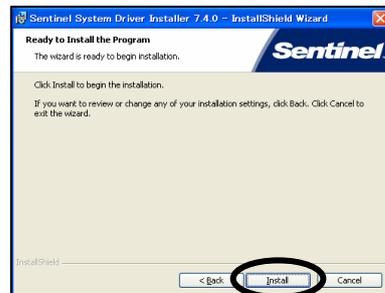
⑤ 「I accept the terms in the license agreement」を選択し、[Next]をクリックします。



⑥「Complete」を選択し、[Next]をクリックします。



⑦[Install]をクリックすると、ファイルコピーが始まります。

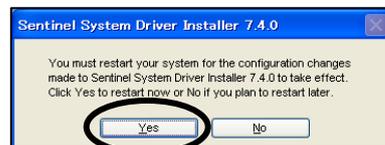


⑧[Finish]をクリックします。



⑨英語で Windows の再起動の確認メッセージが表示される場合があります。
[Yes]をクリックします。(自動的にパソコンが再起動されます。)

- ◆[No]をクリックした場合は、手動でパソコンを再起動して下さい。
- ◆右画面が表示されない場合は、再起動の必要はありません。
次の手順に進んで下さい。



USB プロテクトを接続して、プロテクトのランプが点灯するか確認して下さい。
ランプが点灯した場合は自動的にインストールが始まり、完了します。

自動的にインストールが完了しない場合は、以下の移行の手順を実行して下さい。

- ◆プロテクトのランプが点灯しない場合
(機械の設定により、USB のサービスを使用できない状態である可能性があります。)
- 1. Windows を終了し、機械を再起動し、BIOS の設定画面を表示して下さい。
(BIOS の設定画面の表示方法はコンピュータの機種・メーカーによって異なります。コンピュータの取扱説明書等をご覧下さい。)
- 2. USB の使用可・不可の選択を表示させて、USB=Enabled という設定にして下さい。
(この設定もコンピュータの機種・メーカーによって異なりますのでコンピュータの取扱説明書等をご覧下さい。)

「新しいハードウェアが見つかりました」という画面が表示され、インストールが実行されます。

- ⑩「新しいハードウェアの検出ウィザード」の画面が表示されます。
「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択し、[次へ]をクリックします。



- ⑪[完了]をクリックし、USBドライバのインストールを終了します。

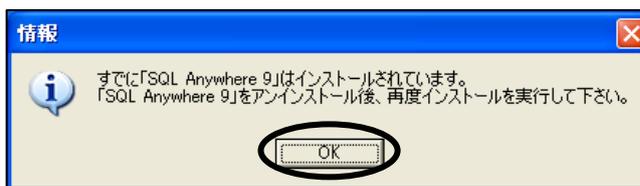


7. SQL Anywhere 9 を個別にインストール

コンピュータにすでにプロテクトドライバ、SQL Anywhere 9、積算システムのすべてがインストールされている場合、「積算システム CD-ROM」画面は右図のようになります。



- ※[SQL Anywhere 9]をクリックすると、右図のメッセージが表示されます。
[OK]をクリックします。



- ※SQL Anywhere 9 をアンインストール後、再度インストールを実行して下さい。

◆SQL Anywhere 9 のアンインストール

<Windows XP の場合>

[スタート] - [コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。

<Windows Vista / Windows 7 の場合>

Windows の [スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムのアンインストール] をダブルクリックします。一覧より [SQL Anywhere Studio 9 のソフトウェア] を選択し、[削除] または [アンインストール] をクリックします。

その後、「積算システム CD-ROM」画面の [SQL Anywhere 9] をクリックし、再度インストールを実行して下さい。

8.ダウンロード手順

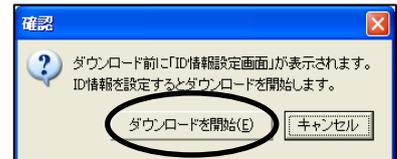
工事名表のダウンロードメニューより、データの更新が行えます。

①「工事名表」画面にて、ツールバーの  をクリックします。

◆メニューバーの[サポート]－[ダウンロード]でも同様です。



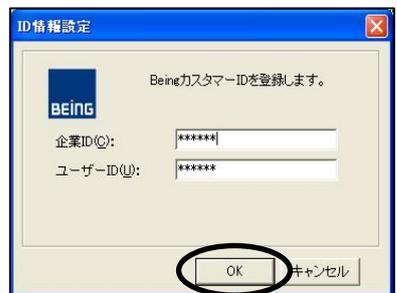
②ID 情報設定を行います。(初めてダウンロードを行う場合)
※2回目以降のダウンロードを行う場合、この画面は表示されません。
右図のメッセージが表示されます。
[ダウンロードを開始]をクリックします。



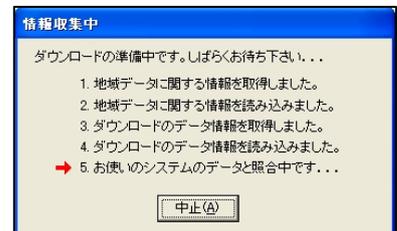
③「ID 情報設定」画面が表示されます。
「企業 ID」、「ユーザーID」を入力し、[OK]をクリックします。

◆企業 ID、ユーザーID については、ご購入時にお渡ししております
「Being カスタマーID のご案内」にて、ご確認ください。

◆「工事名表」画面にて、メニューバーの[サポート]－[ダウンロード]
－[ID 設定]をクリックでも、「ID 情報設定」画面が表示されます。

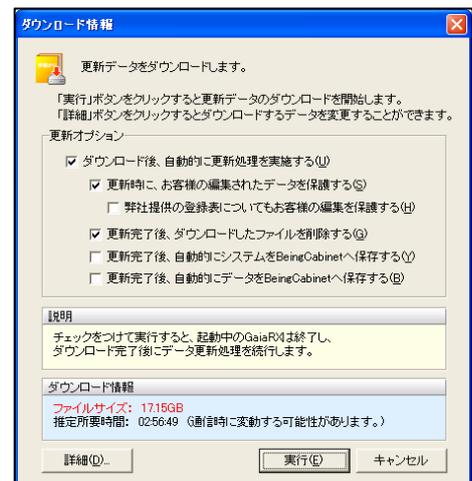


④右図のメッセージが表示されます。しばらくお待ち下さい。



⑤「ダウンロード情報」画面が表示されますので、「更新オプション」を設定し、[実行]をクリックします。

◆更新を実施される場合、起動中の GaiaRX アプリケーションは
終了します。ご注意ください。



◆更新オプション

更新オプション

① ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する(U)

② 更新時にお客様の編集されたデータを保護する(S)

③ 弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する(H)

④ 更新完了後、ダウンロードしたファイルを削除する(G)

⑤ 更新完了後、自動的にシステムをBeingCabinetへ保存する(Y)

⑥ 更新完了後、自動的にデータをBeingCabinetへ保存する(B)

①「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」

「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」にチェックを付けることで、ダウンロード後、自動でデータ更新処理を行います。

データ更新を行わない場合はチェックを外して下さい。

②「更新時にお客様の編集されたデータを保護する」

「更新時にお客様の編集されたデータを保護する」にチェックを付けることで、お客様が登録・編集したデータを残しておくことができます。

この項目にチェックを付けた場合、年度を追加する場合と、年度を上書きする場合とで保護される内容が異なります。

③「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」

「弊社提供の登録表についてもお客様の編集を保護する」にチェックを付けることで、弊社提供の登録表についてもお客様の編集内容が保護され、最新のデータに更新されません。

④「更新完了後、ダウンロードしたファイルを削除する」

ダウンロードを行うと、データインストールフォルダ先の「Download」フォルダに保存されます。「更新完了後、ダウンロードしたファイルを削除する」にチェックを付けることで、データ更新を行った後で、ダウンロードしたファイルを自動で削除することができます。

⑤「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」

「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」にチェックを付けることで、データ更新を行った後で、更新されたシステムを自動で BeingCabinet に保存することができます。

(※BeingCabinet を使用しない場合、選択はできません。)

⑥「更新完了後、自動的にデータを BeingCabinet へ保存する」

「更新完了後、自動的にデータを BeingCabinet へ保存する」にチェックを付けることで、データ更新を行った後で、更新されたデータを自動で BeingCabinet に保存することができます。

(※BeingCabinet を使用しない場合、選択はできません。)

(※このチェックを付けると、自動的に「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」が有効になります。)

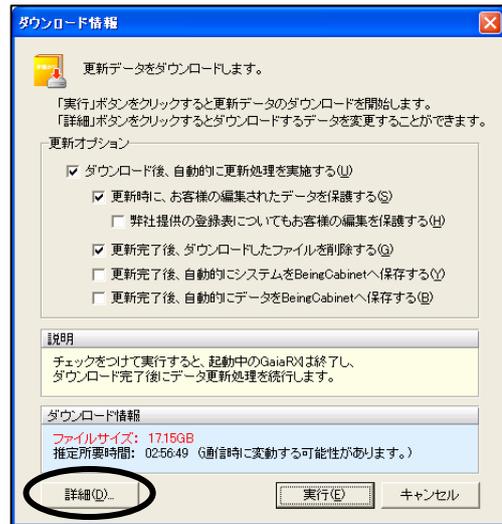
◆アップデートするデータの選択は、システムが自動的に検知して最適なチェックを行いますので、通常はそのまま「実行」をクリックして下さい。

「ダウンロード情報」画面左下の[詳細]をクリックすると、ダウンロードするデータを選択することができます。また、すでにダウンロードしているデータに対してのみ、「ダウンロードー詳細設定」画面に表示させるデータを設定することができます。

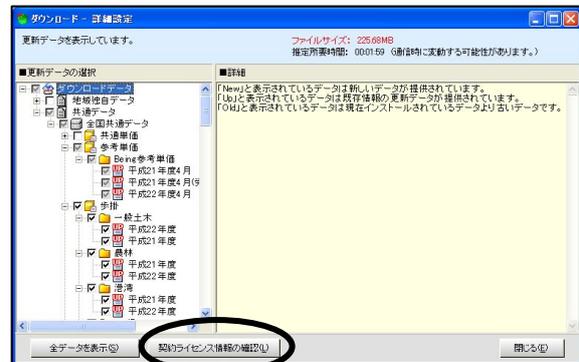
詳細については、「GaiaRX 機能編マニュアル 第4章 ユーザー管理 対象地域を設定する」をご参照下さい。

◆ 契約済みの地域データを確認するには…

- ①「ダウンロード情報」画面にて、[詳細]をクリックします。



- ②「ダウンロードー詳細設定」画面にて、[契約ライセンスの確認]をクリックします。



- ③「契約ライセンス情報確認画面」が表示されます。
契約済みの地域データには  が付いてます。

確認が終了したら、[閉じる]をクリックします。

契約ライセンス情報確認画面

契約済みの地域データ一覧を表示しています。 企業ID: ***** プロジェクト番号: 0990000000004
ユーザーID: *****

契約済みの地域名	無期準備契約月												地域別準備-手排など	契約開始日(地域)	契約終了日(地域)	契約開始日(市郡)		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月						
1	北海道	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
2	青森県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
3	岩手県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
4	宮城県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
5	秋田県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
6	山形県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
7	福島県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
8	茨城県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
9	栃木県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
10	群馬県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
11	埼玉県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
12	千葉県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
13	東京都	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
14	神奈川県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01
15	新潟県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2008/01/01	2012/12/31	2008/01/01

●: 契約済み

閉じる(E)

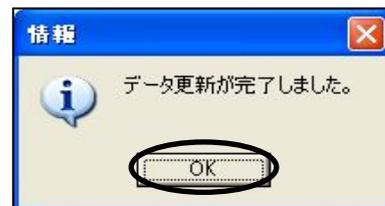
⑥ダウンロードが開始されます。



更新オプションで「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」にチェックを付けた場合、ダウンロード後、自動的にデータ更新が開始されます。

しばらくお待ち下さい。

データ更新が完了すると、右のメッセージが表示されます。
[OK]をクリックします。



●更新オプションで「ダウンロード後、自動的に更新処理を実施する」にチェックを付けていない場合

下図のようなメッセージが表示され、ダウンロードが完了します。

ダウンロードファイルが保存された場所とファイル名を確認し、[OK]をクリックします。



データ更新をする際は、「データ管理」→「データを更新」→「ファイルから更新」より、保存したファイル(Toc8.xml)を指定し、データの読込を行って下さい。
詳細については、「GaiaRX 機能編マニュアル 第3章 データ管理 データ更新 ダウンロードデータを読み込む」をご参照下さい。

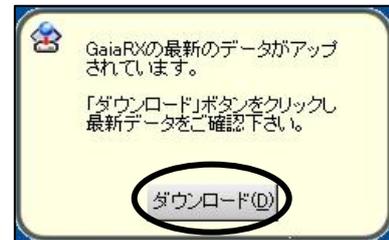
●更新オプションで「更新完了後、自動的にシステムを BeingCabinet へ保存する」
「更新完了後、自動的にデータを BeingCabinet へ保存する」にチェックを付けた場合

データ更新完了後に、自動で BeingCabinet に保存されます。

◆GaiaRX 起動時に、「GaiaRX の最新データがアップされています。～」のメッセージが表示される場合

2回目以降ダウンロードを行う場合で、ピーニングのダウンロードサーバーに GaiaRX の更新データがアップされている場合、ダウンロードを促すお知らせメッセージが表示されます。

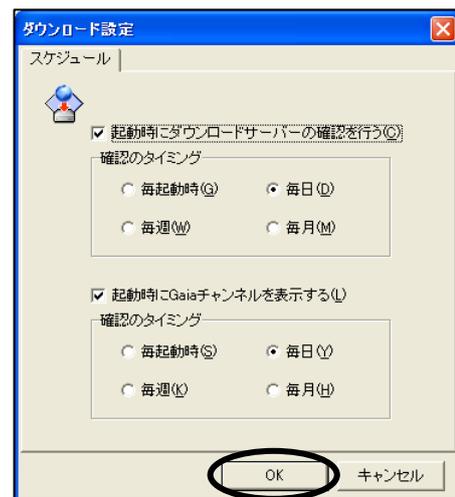
[ダウンロード]をクリックし、最新データをご確認いただき、必要であればダウンロード・データ更新を行って下さい。
(「工事名表」画面にて、ツールバーの[ダウンロード]をクリックでも同様です。)



<お知らせメッセージの表示設定>

- ①「工事名表」画面にて、メニューバーの[サポート] - [ダウンロード] - [スケジュール設定]をクリックします。
- ②「ダウンロード設定」画面が表示されます。
起動時にダウンロードサーバーの確認を行うかどうかの設定、確認のタイミングの設定を行うことができます。

設定が終わりましたら[OK]をクリックします。



9.よくあるエラー

何らかの原因で予期せぬエラーが起きた場合、エラーメッセージが表示されることがあります。

発生箇所、エラーコード、詳細内容、システムバージョンを、弊社サポートまでご連絡下さい。

①発生箇所

エラーが発生した【アプリケーション名】[画面名]の順に表示されます。

②エラーコード

エラーの種類を9桁の数字で表します。

③詳細内容

詳細なエラーメッセージが表示されます。

④システムバージョン

現在、使用しているシステムのバージョンが表示されます。

⑤解決策を表示

[解決策を表示]をクリックすると、弊社ホームページのトラブルシューティングのサイトに接続します。

※ユーザーサポートのメニュー「ツール」-

「インターネット」の設定にて、「インターネット機能を使用しない」を選択している場合、表示されません。

※エラーの内容によって、表示されません。



■ ダウンロード中のエラーの場合

ダウンロード中にエラーが発生した場合は、以下のようなメッセージが表示されます。

①発生箇所

エラーが発生した【アプリケーション名】が表示されます。

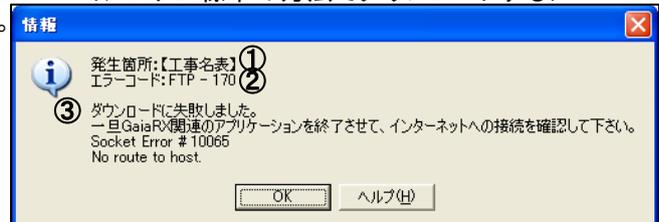
②エラーコード

エラーの種類を数字とアルファベットで表します。

③詳細内容

詳細なエラーメッセージが表示されます。

<システム標準の方法でダウンロードする>



<Internet Explorer 形式でダウンロードする>



■ コードからエラーの内容を確認する

以下の表に、主なコードをまとめました。トラブル解決の参考にして下さい。

コード	エラー内容	確認事項等
上3桁	エラーの種類を示します。	
064	本システムから Excel や Word 等の他アプリケーションの起動に失敗したことを示しています。	他アプリケーションがインストールされているかどうかをご確認下さい。
065	本システムから Excel や Word 等の他アプリケーションの起動はできたが、そのアプリケーション上での実行に失敗したことを示しています。	すでに他アプリケーションが起動していないかどうかをご確認下さい。
074	データベースが原因でエラーが発生していることを示しています。	中3桁、下3桁のコードでより詳細な情報を得ることができます。(下記の表以降を参照) ご確認のうえ、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。
079	データベースが原因でエラーが発生していることを示しています。	中3桁、下3桁のコードでより詳細な情報を得ることができます。(下記の表以降を参照) ご確認のうえ、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。
139	印刷フォームファイルの構成が正しくない可能性があることを示しています。	データインストールフォルダ¥GaiaRX¥Forms 以下の構成が正しいかどうか等を確認するため、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。

上3桁が「074」または「079」の場合は、以下も参考にして下さい。

コード	エラー内容
中3桁	上3桁が 074～081 の場合に 000 以外が表示されます。エラーが発生している DB 名称や DB 内部の発生箇所を示します。
100～	工事管理 DB でエラーが発生していることを示しています。
200～	年度 DB でエラーが発生していることを示しています。
300～	パーソナル DB でエラーが発生していることを示しています。
400～	工事 DB でエラーが発生していることを示しています。
500～	歩掛 DB でエラーが発生していることを示しています。
600～	単価 DB でエラーが発生していることを示しています。
コード	エラー内容
700～	経費 DB でエラーが発生していることを示しています。
800～	マスタ DB でエラーが発生していることを示しています。
1100	ユーザーサポートの自動復旧ができなかったことを示しています。
下3桁	上3桁が 074～081 の場合に 000 以外が表示されます。DB エラーの種類を示します。
035	読み込みに失敗しました。
071	キー違反です。
506	一般 SQL エラーです。

■ ダウンロード中のエラーの場合

コード	エラー内容	確認事項等
『システム標準の方法でダウンロードする』		
143	インターネットに接続できなかったことを示しています。(タイムアウト・ポートが閉じられている)	インターネットへの接続設定を再度ご確認ください。 接続時間に関して制限を設けていないか、ルータ等の設定をご確認下さい。 FTP 接続が行えるかどうか、ネットワーク管理者にご確認下さい。 上記を確認した後、特に問題が無いようでしたら、ユーザーサポートにて、インターネットの接続方法を変更して、再度ダウンロードを行って下さい。(機能編マニュアル「第5章 ユーザーサポート インターネット接続を設定する」を参照)
150	インターネットに接続できなかったことを示しています。(タイムアウト) SocketError#10060 SocketError#10065 等	
170	インターネットに接続できなかったことを示しています。(サーバーへの接続に失敗) SocketError#11004 SocketError#11001 等	ダウンロード中にインターネットへの接続が不安定になったり、途中で切断されなかったかどうかご確認ください。 接続時間に関して制限を設けていないか、ルータ等の設定をご確認下さい。
『Internet Explorer 形式でダウンロードする』		
12002	インターネットに接続できなかったことを示しています。(タイムアウト)	ユーザーサポートにて、インターネットの接続方法を変更して、再度ダウンロードを行って下さい。(機能編マニュアル「第5章 ユーザーサポート インターネット接続を設定する」を参照) FTP 接続が行えるかどうか、ネットワーク管理者にご確認下さい。
12007	インターネットに接続できない、または、DNS の設定が正しくない、または、Proxy の設定が正しくないことを示しています。	インターネットへの接続設定を再度ご確認ください。
12029	インターネットに接続できなかったことを示しています。(サーバーへの接続に失敗)	ユーザーサポートにて、インターネットの接続方法を変更して、再度ダウンロードを行って下さい。(機能編マニュアル「第5章 ユーザーサポート インターネット接続を設定する」を参照) FTP 接続が行えるかどうか、ネットワーク管理者にご確認下さい。
12031	ダウンロード中に接続が切断されたことを示しています。	接続時間に関して制限を設けていないか、ルータ等の設定をご確認下さい。

10. Windows Vista/Windows 7 でご使用時の注意事項

Windows Vista/Windows 7 で使用される場合の注意事項をお知らせします。制限事項等の最新情報は、弊社ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

◆Windows Vista/Windows 7 環境を快適にご使用いただくため、コンピュータの搭載メモリは 1GB 以上を推奨します。

搭載メモリが 1GB 未満の場合は、動作が遅いなど、GaiaRX のほか一部のソフトウェアが正常に動作しないことがあります。

◆Windows Vista/Windows 7 で GaiaRX をご使用される場合、Guest アカウントでログオンされると別のコンピュータにインストールした BeingCabinet に正常にネットワーク接続できない場合があります。Users 権限以上のアカウントを作成して使用されることを推奨します。

■製品の検証環境

対応する「Windows Vista」製品は以下のとおりです。

- ・Windows Vista Home Basic 日本語版
- ・Windows Vista Home Premium 日本語版
- ・Windows Vista Business 日本語版
- ・Windows Vista Enterprise 日本語版
- ・Windows Vista Ultimate 日本語版

対応する「Windows 7」の製品は、以下のとおりです。

- ・Windows 7 Home Premium 日本語版
- ・Windows 7 Professional 日本語版
- ・Windows 7 Ultimate 日本語版

11. 「プロテクトドライバ、SQL Anywhere9 がインストールされていないためインストールは行えません。」

と表示される

[積算システム]をクリックすると「プロテクトドライバ SQLAnywhere9 がインストールされていないためインストールは行えません。」とエラーメッセージが表示された場合にご確認ください。

※Windows のログオンユーザーに Administrator 権限が必要です。

《現象》

GaiaRX インストール時に[積算システム]をクリックすると、「プロテクトドライバ、SQL Anywhere9 がインストール されていないためインストールは行えません。」というエラーメッセージが表示される。

※下記のレジストリがオンに設定されている場合に、このエラーメッセージが表示されます。

・レジストリの場所

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SYSTEM ¥ ControlSet001 ¥ Control ¥ FileSystem

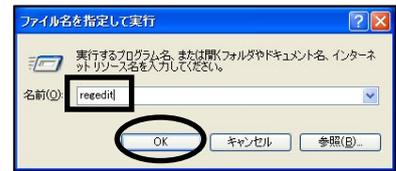
・キー

NtfsDisable8dot3NameCreation

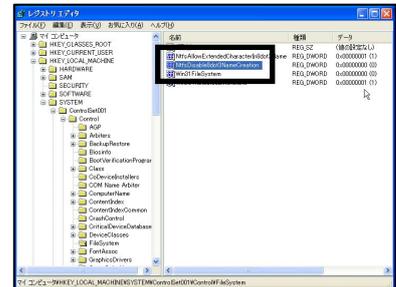
《対処方法》

レジストリの設定をオフに切り替え、再度インストールします。

- ①[スタート]－[ファイル名を指定して実行]をクリックし、「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。
「regedit」と入力し、[OK]をクリックします。



- ②「レジストリエディタ」画面が表示されます。
¥¥HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SYSTEM ¥ ControlSet001 ¥ Control ¥ FileSystem を開き、「NtfsDisable8dot3NameCreation」をダブルクリックします。



- ③右画面が表示されます。
「値のデータ」欄の数値を[0]に変更し、[OK]をクリックします。



以上で、「NtfsDisable8dot3NameCreation」レジストリの設定がオフに切り替わりました。

12. BeingCabinet の使用について

GaiaRX を複数台ご使用の場合、BeingCabinet をご利用いただくと、工事データの共有や、歩掛変更などによって最新の状態に更新されているデータを簡単に共有することが実現できます。
※この機能は BeingCabinet を使用する設定の場合のみご利用になれます。

■BeingCabinet をインストールすると・・・

BeingCabinet をインストールしたサーバー用コンピュータに、ネットワーク経由で接続できる環境であれば、BeingCabinet に保存されているデータを、GaiaRX をインストールしたコンピュータで共有することができます。
※BeingCabinet と同じコンピュータに GaiaRX をインストールしている場合も同様です。

- ・工事データをサーバー用コンピュータに保存し、他の GaiaRX と共有できます。
- ・単価、歩掛、経費、Excel 帳票、発注者データを BeingCabinet に保存し、他の GaiaRX にて、ダウンロードして使用することができます。

- ①BeingCabinet を使用する場合は、サーバー用コンピュータに、BeingCabinet をインストールします。
BeingCabinet のインストール方法については、「BeingCabinet インストールマニュアル」をご参照下さい。
- ②GaiaRX をインストール時であれば、インストールマニュアルの「BeingCabinet の設定」をご参照下さい。
- ③GaiaRX を起動すると、自動的に BeingCabinet に、更新データがないかどうかチェックを行います。

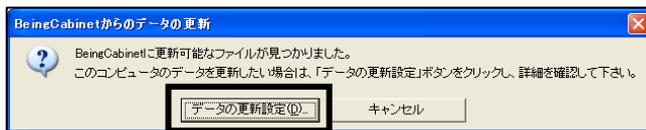
「GaiaRX 起動メニュー」で、[積算][データ管理][ユーザー管理][経費エディタ][フォームエディタ]を選択した場合と、GaiaRX の[積算]を直接起動した場合に差分のチェックが行われます。

■BeingCabinet に更新可能なファイルがない場合

起動メニューで選択した画面がそのまま表示されます。更新の必要はありません。

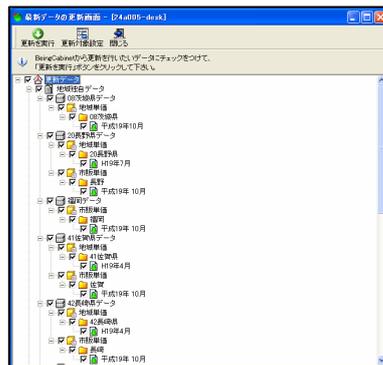
■BeingCabinet に更新可能なファイルがある場合

右図のメッセージが表示されます。



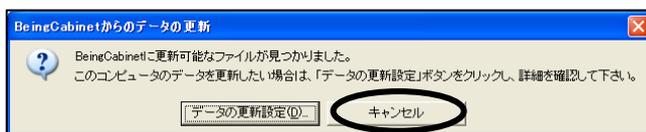
＜データの更新を行う場合＞

[データの更新設定]をクリックします。「最新データの更新」画面が表示されますので、更新したいデータを選択します。後述の「手順④」にお進み下さい。



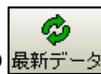
＜データの更新を行わない場合＞

[キャンセル]をクリックすると、データの更新を行いません。起動メニューで選択した画面が、表示されます。※データの更新を行わない場合も、通常の作業を行うことができます。



◆データの更新を行わなかった場合

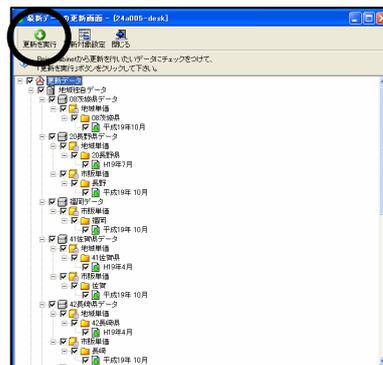
画面下のステータスバーに、「BeingCabinetに更新可能なデータが見つかりました。」と、お知らせが表示されます。



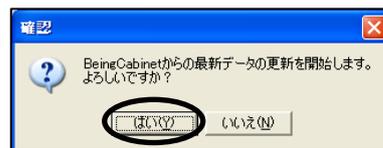
起動時にデータの更新を行わなかった場合でも、ツールバーの最新データををクリック、または、メニューバーの[ツール] - [BeingCabinet] - [BeingCabinet から最新データを更新]にてデータの更新ができます。

④BeingCabinet とお使いのパソコンのデータを比較し、差分があるデータには、自動的にチェックが付きます。

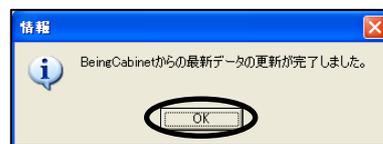
更新を行うデータを確認し、 をクリックして下さい。



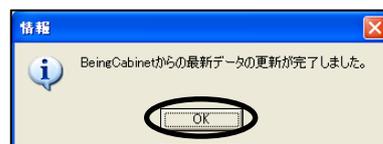
右図の画面が表示されます。よろしければ[はい]をクリックして下さい。



データの更新が開始されます。更新するデータの量によっては時間がかかる場合があります。



すべてのデータの更新が完了すると、右図の画面が表示されます。[OK]をクリックし、終了して下さい。



◆BeingCabinet へデータの保存

BeingCabinet へデータの保存をすることもできます。BeingCabinet へデータを保存しておく、他のコンピュータとのデータの共有が、簡単に実現できます。

「GaiaRX 起動メニュー」で[積算]もしくは[データ管理]を起動、または、データ更新後に BeingCabinet へデータの保存をすることができます。

BeingCabinet へのデータの保存方法については、「機能編マニュアル 第10章 BeingCabinet 連携」をご参照下さい。

13. インターネットプロテクトについて

■お客様ご契約情報について

工事名表の[サポート]－[BeingWeb ページ]－[お客様ご契約情報]をクリックすると、「お客様ご契約情報」が表示されます。

お客様ご契約情報では、

- ライセンス情報の確認
- メールアドレスの設定
- パスワードの変更

が行えます。

※お客様契約情報にログインするには、商品に同梱されている「企業 ID」「ユーザーID」「パスワード」が必要です。

■ライセンスを変更する場合

インストール終了後に、ライセンスを切り替えることができます。

(初期設定を行う)

Windows のスタートボタンから、[すべてのプログラム]→[GaiaRX]→[ツール]→[GaiaRX 初期設定]にて、行って下さい。

■ライセンスの返却について

ライセンスを返却するには、GaiaRX を起動し、

工事名表のツールバーの  をクリックします。

(工事名表メニューの[工事]→[ライセンスを返却して終了]をクリックでも同様です。)



返却したライセンスは他のコンピュータで使用できます。

次回起動時は、インターネットに接続し、空きライセンスを取得することにより起動できます。

・ライセンスを占有したままコンピュータが故障した場合は、強制返却を行います。

強制返却は、「お客様ご契約情報」の「ライセンス情報」より行って下さい。

※「お客様ご契約情報」は、工事名表の[サポート]→[BeingWeb ページ]→[お客様ご契約情報]をクリックすると、表示します。

※お客様ご契約情報にログインするには、商品に同梱されている「企業ID」「ユーザーID」「パスワード」が必要です。

返却せずに終了した場合は、インターネットに接続できない環境でも、一定期間オフラインで使用できます。

オフラインで使用できる期間は、インターネットに接続した状態で起動した最終日から7日間です。

それ以降はオフラインで起動できませんので、インターネットに接続した状態で起動して下さい。